

成長を続ける韓国・浦項市のビジョン

ポハン

～積極的な日本誘致で地域経済の活性化を～

韓国・慶尚北道東海岸の港湾都市である浦項市は、1973年に浦項総合製鉄（現ポスコ）が浦項製鉄所を設けて以来、工業都市として発展してきた。08年に部品素材専用工場を設け、09年には迎日湾港が開港したことで安価な物流輸送が可能になった。浦項市は近年こういったメリットを生かし、部品素材企業の誘致に力を入れている。企業誘致の狙いや浦項市の特徴について、朴承浩市長に日刊工業新聞社の井水治博社長が聞いた。

企業が進出していますか。

朴 11年9月にイビデンが特殊炭素製品の工場建設を決めました。5月に着工し、13年の稼働を予定しています。今年3月には東海カーボンがポスコケムテックと協力して浦項市とMOU（了解覚書）を交わし、入居手続きを進めています。現在日本の大手企業や、中国、アイルランドなど各国の企業とも協議を進めています。

交通インフラが充実

井水 韓国の他の自治体も日本企業誘致に積極的です。浦項市特有の支援制度や立地メリットはありますか。

朴 新規参入企業へはワンストップでの行政サービス提供など、強力な支援政策を実施しています。積極的に日本企業を誘致しようとする情熱も浦項市の長所です。

日本企業が懸念する労働争議発生も低いです。私は市長に就任後、ポスコなど地域の企業と協力して労使関係を安定するために努力してきました。06年に10件だった労使紛争が07年から09年までは毎年4件、10年には3件にまで減りました。

浦項市周辺には自動車、造船、石油化学産業で知られる蔚山や、造船、機械、物流産業が盛んな釜山、電子部品産業などの工業団地がある亀尾などの工業都市があり、製品の販売や部品調達、労働力の確保などの点で有利です。

空港をはじめとする陸海空のインフラも充実しています。13年には浦項-蔚山高速道路が開通し、蔚山まで30分で行くことができるようになり、14年には高速鉄道〔KTX〕の新線が開通するため、ソウルまで1時間50分でアクセス可能となります。浦項 釜徳間東海高速道路建設は20年完工が目標です。

浦項は日本の新潟、直江津、富山やロシアのウラジオストク、ポストナユ、中国の连云港、北朝鮮の羅津、先鋒をつなぐ準備ができており、日本企業の中国、ロシア進出にも浦項の果たす役割は大きいと思います。

井水 交通インフラの整備が進めば、企業にとってメリットが大きいですね。

朴 昨年12月に国道代替迂回道路（迎日湾大通り）が開通し、迎日湾から40分以上掛かっていたのが20分にまで短縮でき、鉄鋼工業団地に入居している企業のコスト削減に結びつけました。新しく造成中の大邱・慶北経済自由区域や浦項ブルーバレーも迎日湾大通りを通じて迎日湾につながっているの、進出する企業にとって大きなメリットになるのではないのでしょうか。

井水 進出した企業が浦項にある研究機関と共同開発をしたり、人材を獲得したりするチャンスはあるのでしょうか。

朴 浦項にはポステックや

知能ロボット研究所をはじめ、約60カ所の研究機関があります。本来の任務である研究開発以外に、地域の企業との共同研究や技術開発にも積極的に参加しています。

一例として、浦項金属素材産業振興院（POMIA）は昨年24地域の中小企業とともに中国やベトナムの海外市場開拓に乗り出し、1億1,000万ドルの輸出商談実績を上げました。韓盛重工業との研究開発では、ポスコと3年間で70億ウォン規模の供給契約を締結する実績を上げました。

知能ロボット研究所の場合、浦項市やポスコ、ポステックと連携して水中建設ロボット、鉄鋼ロボットなど12種のロボット開発をはじめとした各種研究開発をするなど、さまざまなプロジェクトを推進しています。最近では無人潜水艇を開発して探査実験に成功するなど、少なからず成果を上げています。

今年4月からは「韓国ロボット融合研究院」として国の専門生産研究所に昇格しました。既存の産業インフラと研究所間の協力をもとにポスコやLG、サムスンなど、ロボット事業の新規事業発足や事業拡大を検討している大手企業の投資活性化を通じた雇用創出を期待しています。

浦項には「ノーベル士官学校」と呼ばれ、世界的な名声を誇る独マックス・プランクの研究所があります。選考が厳しいことで有名なマックス・プランク研究所が浦項にできたのは、浦項の優れた科学研究インフラと約4,000人の優秀な研究者、そして研究成果をすぐに産業と結びつけることができる環境があるからです。浦項産業科学研究院（RIST）も研究成果を企業が利用できるよう技術移転をするなど、研究機関と地域の企業との連携は盛んです。

井水 今後力を入れたい分野はありますか。

朴 韓国政府は海外の優秀な部品素材企業の誘致や投資を奨励しています。その一環で浦項を含めた4つの地域に外国人専用部品素材工業団地を設け、敷地の無償提供や税制優遇などのインセンティブを提供しています。浦項もこうした政府の施策に対応するほか、太陽電池や再生可能エネルギー関連の企業も誘致していく方針です。

井水 進出を検討している企業にとっては、住環境も大きな関心事です。浦項の学校や医療はどのような状況ですか。

朴 教育に関しては全く心配する必要はありません。14年にポステックの近くに浦項外国人学校を開校する予定です。幼・小・中・高13年制の学校で、ポスコ教育財団が運営します。総事業費230億ウォンを投じて

最新の設備を備えた、グローバルなインターナショナルスクールです。

浦項には総合病院4カ所を含め約500カ所の医療機関があります。その他にも、造成中の大邱・慶北経済自由区域内に外国人病院と薬局を開設します。

井水 浦項は歴史的に日本と関係が深いと聞きました。

朴 韓国の歴史書「三国遺事」には、157年に延鳥郎（ヨノラン）、細島女（セオニョ）という夫婦が迎日縣（現在の浦項市）から日本に渡ったとの記録があります。1900年代初めには香川県や岡山県などから多くの漁師が現在の九龍浦地区に来て、日本人村を形成しました。今もその跡が残っており、浦項市は近代文化歴史通りとして復元事業を推進しています。ポスコが工場を設立する際には新日本製鉄から業務協力を受けました。08年から10年までに1,602人の浦項市職員が九州で研修したこともあります。

観光事業への取り組み

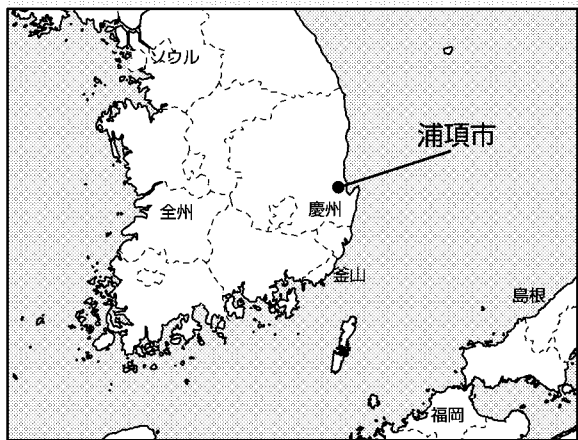
井水 浦項は観光にも力を入れていますね。

朴 観光地としてまず挙げられるのは竹島市場です。約1,200の店が並ぶ東海岸最大規模の伝統市場で、観光客でいつもにぎわっています。日本人村があった九龍浦は全国の漁獲量の54%を占めるズワイガニの産地で、5月11日まで水産物フェスティバルを開催中です。

毎年7月末から8月初めに掛けて開いている浦項国際光祭りは今年で9回目を迎えます。花火や多彩なイベントを楽しむことができ、期間中は約120万人の観光客が来ます。7月31日には舞鶴港から日本人観光客400人を乗せたクルーズ船が浦項に来ます。浦項と舞鶴間の国際フェリーモデル事業の一環として開催されるこのイベントが、日韓両国の友好促進に役立つことを期待しています。

井水 本日は有意義なお話をありがとうございました。

韓国 浦項市 市長 朴承浩氏



新たな投資先として

井水 まず浦項の産業構造について教えてください。

朴 浦項には1,020の企業があります。なかでも鉄鋼業を手がける企業が385社と全体の38%を占めます。地域内総生産額は13兆7,322億ウォンで、慶尚北道全体の23.8%を占めています。人口は52万1,896人で、15歳以上の人口は43万8,617人と09年よりも約2万2,439人増加しました。実際に浦項市の地域経済は活性化しています。

井水 日本企業の誘致に熱心に取り組んでいますね。

朴 企業を誘致して雇用を生み、地域経済を活性化するのは自治体の重要な役割の一つです。なかでも日本は地理的に近だけでなく、優れた技術力があります。日本企業の誘致は鉄鋼に偏った浦項の産業構造の多様化や、先端技術の習得に役立つと期待しています。

浦項には世界有数の鉄鋼メーカーであるポスコがあり産業基盤が安定しているため、企業進出の際に相乗効果が期待できます。浦項工科大学（ポステック）や知能ロボット研究所、浦項産業科学研究院などの先端研究施設も整っています。

井水 昨年浦項市や日本で説明会を開いたそうですね。

朴 日本での浦項の認知度はまだ高くありません。しかし説明会では、進出先として釜山や亀尾を念頭に置いていた日本の企業関係者も、浦項という新たな投資先があるということに非常に肯定的な反応を示しました。すでに具体的な成果も出ています。

井水 素晴らしいです。今後はどんな誘致策を予定していますか。

朴 7月27日に浦項で開催されるアジア太平洋都市サミットと連携して投資誘致説明会を開くほか、9-10月頃には東京や大阪でも説明会を開きます。また海外投資に関心がある日本企業を浦項に招待し、現場の視察ツアーや投資相談会を開く予定です。

井水 今までにどのような



日刊工業新聞社
社長 井水 治博

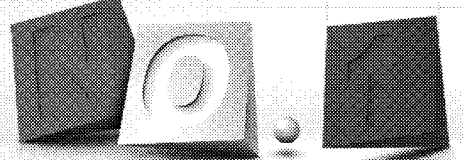
東北アジアにおける物流拠点、迎日湾(ヨンイルマン)港と成長潜在力の高い都市、浦項(ポハン)が皆様のビジネスをサポートいたします。

2009年8月に開港した迎日湾港は、これまで港湾を利用した安価な物流輸送の実現に努めてきました。大邱や蔚山に隣接しているため既存の部品素材メーカーとの連携や人材確保が容易なのが特徴です。

POSCOや国際的な研究大学のPOSTECHなど、産・学・研連携のR&D環境がビジネス活動をサポートします。

外資系企業に画期的なインセンティブを提供する部品素材専用工業団地は、他の地域とは比べものにならないほどのグローバルな投資環境を完備しています。

- 浦項部品素材専用団地に一定規模以上(100万ドル以上の高度技術随伴事業または500万ドル以上の製造業)を投資した場合、敷地賃貸料を50年間100%減免
- 法人税、所得税の場合、5年間100%、以後2年間50%減免
- 取得税は15年間100%、財産税は10年間100%減免



ponang 浦項市
Thank you

なぜパートナー浦項2012
——迎日湾ルネッサンスに向かって——

